

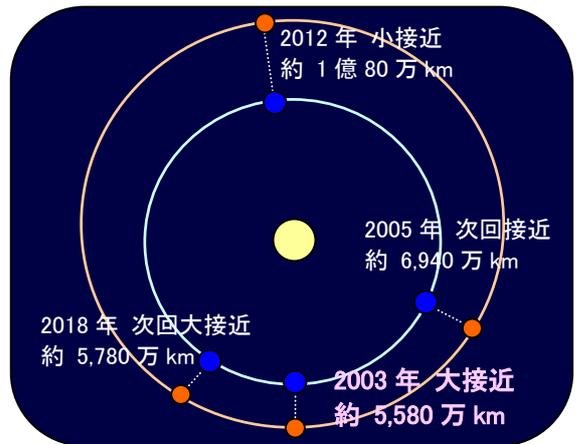


火星大接近 ~お隣の惑星を見よう~

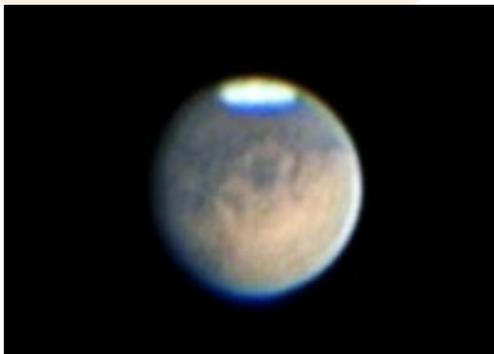
☆大接近とは何？



火星は2年と2ヶ月ごとに地球に接近しますが、接近ごとで大きさが違います。それはなぜかという、火星は太陽の周りを楕円の形で回っているため、地球の円軌道と近づいたり離れたりするからです。地球と火星の軌道が最も近いところで接近できれば「大接近」となり、大きな火星が観察できます。今回の接近はこの条件にピッタリとなり、過去に例がない「大接近」と騒がれているのです。



☆火星はどんな星？



火星の表面は赤茶色をした地表で覆われています。これは火星の土に酸化鉄（さびた鉄）が多いからです。とても赤い色をして見えるため、昔は不吉な星とも言われていました。大きさは地球の約半分で、空気もありますが、ほとんどが二酸化炭素です。南極や北極はこの二酸化炭素が凍ったドライアイスの雪原になっています（極冠と呼ばれています）。季節の変化がありますので、夏には極冠も小さくなります。今回の「大接近」では、火星南極の夏の様子が見られます。

☆火星を見よう！



地球と火星が最も近づいたのは8月27日ですが、9月末まで大接近の様子が楽しめます。暗くなってすぐ、南東の空に赤い色のひとときわ明るい星を見つけたらそれが火星です。街中の夜空が明るい場所でも簡単に見つけられるでしょう。

ただ、「大接近」とは言ってもその距離はあまりにも遠いものですので、決して月のように大きく見えるわけではありません。火星表面の様子を見るには天体望遠鏡が必要になります。

なお、10月以降は火星が離れてしまうため、だんだん暗くなりますが、年末までは夕方南西の空に見えています。何日かに1回程度、火星を見ていくと、見える位置が変わっていく様子もわかります。今年いっぱい、火星は秋の星座「みずがめ座」に居て、南の星座を探す目印にもなってくれます。

